

2019年3月28日

各位

FIFA 女子ワールドカップフランス 2019 の審判員に
当社社員が選出
～田辺三菱製薬と縁の深いサッカーで快挙～

田辺三菱製薬株式会社（本社：大阪市、代表取締役社長：三津家 正之）の社員である萩尾 麻衣子が、今年フランスで行われる FIFA 女子ワールドカップフランス 2019 に審判員（副審）として選出されました。

田辺三菱製薬は、従業員一人ひとりがワークライフバランスの取れた生活のなかで、自らの能力を十分に発揮し、夢の実現に向けて取り組むことを全力で応援していきます。大会に出場する日本の選手たちへの応援とともに、萩尾副審を含む日本の審判員の皆さんへの熱いエールをよろしくお願いたします。

<プロフィール>

氏名：萩尾 麻衣子（ハギオ マイコ/ HAGIO Maiko）

1979年12月生まれ、福岡県出身

所属サッカー協会：大阪府

国際審判員登録：2015年

主な国際大会：FIFA U-17 ワールドカップ 2016、
アルガルベカップ 2017/2018/2019、AFC Women's
Asian Cup 2018

**<萩尾 麻衣子コメント>**

“All the best ! ”、そう声を掛けて、試合に臨む審判員を見送るときはいつもお互いにハグを交わします。日本人同士は照れのため握手だけです。タッチラインから観るフィールドの景色は、会社のデスクから見える世界とは全く違います。たまに美味しそうな匂いがすることはデスクにいても同じかもしれませんが、生气躍動する選手たち、コーチの指示や観客の声援、ボールがビュンと音を鳴らしゴールする瞬間、全て勝負の境目です。それは、会社と同じだと感じます。全世界への医薬品を創製する時間の中で、患者さんに一番乗り届けるというゴールまでの一瞬一瞬を切り取れば、そこに繋がる社員の結晶が輝いているのが分かります。この会社で働ける喜び、身近で支えてくださっている方々への感謝の気持ちを込めて、ワールドカップのフィールドで全力を尽くすことを約束します。

<田辺三菱製薬とサッカーの深い関わり>

田辺三菱製薬の前身である田辺製薬は、1950年から全日本実業団選手権6年連続優勝や1981年の天皇杯全日本サッカー選手権大会準優勝の記録を持つ、サッカーの名門でした。サッカーに関わってきた歴史は古く、特に創業家の十四代田邊五兵衛（1941年～1959年 田辺製薬社長、1959年～72年 同会長、以下、「五兵衛」）は、世界中で愛されているサッカーが、日本では馴染みの薄いスポーツであることを痛感して、日本でのサッカー振興にいち早く取り組んだ人物です。2005年には、日本サッカー協会の第1回「日本サッカー殿堂」に「日本サッカーの発展に顕著な功労者」として五兵衛が選出されました。

五兵衛は、実業団スポーツのさきがけとして、1920年代に田辺製薬にサッカー部を創部し、1931年には関西蹴球協会設立に尽力して初代会長となるなど、サッカーの普及に向けて精力的な活動を続けました。

サッカーを日本で普及させるうえで、五兵衛が強く意識したのは、女性を引き入れるということでした。女性やその子どもたちがサッカーに夢中になることで、普及がより早く進むと考えたのです。1967年に神戸で初めて行われた女性チーム同士の試合に女性のレフェリーを起用したのも五兵衛のアイデアとされています。

田辺三菱製薬の本社（大阪・道修町）にある田辺三菱製薬史料館には、五兵衛に関連したサッカーの史料を展示するコーナーを設けています。日本サッカーの創成期の歴史を垣間見ることができる展示ですので、機会があればぜひご覧ください。



日本サッカー殿堂 十四代田邊五兵衛のレリーフ

田辺三菱製薬株式会社 広報部

（お問合せ先） 報道関係者の皆様

TEL : 06-6205-5119

田辺三菱製薬の概要

田辺三菱製薬は、1678年に創業、日本の医薬品産業発祥の地である大阪の道修町に本社を置き、医療用医薬品事業を中心とする国内上場企業としては最も歴史ある老舗企業です*。「医薬品の創製を通じて、世界の人々の健康に貢献します」という企業理念のもと、中期経営計画16-20では「Open Up the Future - 医療の未来を切り拓く」をキーコンセプトと決めました。重点疾患領域である「自己免疫疾患」「糖尿病・腎疾患」「中枢神経系疾患」「ワクチン」を中心に、アンメット・メディカル・ニーズに応える医薬品の創製を通じて、世界の患者さんの健康に貢献していきます。<https://www.mt-pharma.co.jp/>

※東京商工リサーチ調べ